



市民病院

ハちゃん通信

医療機器に精通した専門医療職 臨床工学技士

市民病院臨床工学室 ☎ 48-5050

病院で働く職員の中に臨床工学技士という医療職があることを知っていますか？

臨床工学技士は、医学と工学を兼ね備えた専門医療職です。現在の医療には、様々なところに医療機器が使用されており、当院でも人工呼吸器や輸液ポンプ、内視鏡、心電図モニターなど、正常に作動しないと命の危険につながる医療機器がたくさんあります。

臨床工学室では、臨床工学技士がこれらの医療機器を適切に使用できるように点検・管理を行い、安全性の確保と有効性の維持に努めています。他にも、医師や看護師などに対して、機器を適切に使用するための研修、人工透析やアフェレシス療法とよばれる血液浄化療法、心臓の機能の測定や血管造影などを行う心臓カテーテル検査の補助、自宅で使用する人工呼吸器や輸液ポンプなどの相談対応と業務は多岐にわたります。医療機器のメンテナンスを通じて、患者さんや医療スタッフを支える縁の下の力持ちとして24時間365日安心安全な医療の提供に努めています。



あなたはこれからの先の未来に何を
つなげますか？



この言葉は、1月12日に開催された二十歳を祝う会での実行委員からのメッセージです。家族、会社、組織、活動、事業、想いなど様々な答えがきつと人の数分あると思います。

私個人としては「人としての在り方」を子どもたちやご縁ある皆さんにつなげていきたいと思っています。また、市長としては「新たな力とともに創る笑顔と元気のみなとまちへきなん」のキャッチフレーズがあるように、これまで碧南市を創ってこられた先人の想いや歴史的な風土性、文化を大切にしつつ、新たな碧南市の魅力を取り入れ「なんだか碧南にいとワクワクするよね！」という気持ちをつなげていきたいと思っています。皆さんは未来に何をつなげていきますか？

今年の二十歳を祝う会の対象者は平成16年度生まれの皆さん。私もちょうどこの年に母1年生となりました。自分の母がすでに他界していたため、母がいなかった皆さんの人に助けていただきながらのあつという間の20年。初めてのこととは不安ばかり。泣いたり、怒ったり、心配したり。『もうっ！』と思うこともありましたが、今振り返るとつらかったことより笑顔で楽しかった思い出ばかりで幸せだったことに気がきます。

二十歳を祝う会の市長の挨拶で、イソップ童話の「うさぎとかめ」の話をしました。ここで私が伝えたかったことは「目先のものだけを見るのではなく、自分が何を目指しているのかを考えて、意識して、今自分ができることをやり続けていくことの大切さ」です。

世界トップクラスで自己肯定感が低い日本。周りばかりが気になり、比較し始め、自分の本来やりたいことも、チャレンジすることすら諦めてしまう人もいます。できないことや他人の目を気にせず、自分ができることから覚悟と信念を持って、それを成功するまでやり続ける力。カメは当然ウサギに比べて足は遅い。でも勝てたのは、カメの見ている先が目標であるゴールだったから。一方、ウサギは、競争相手であるカメを見ていたから、油断し休憩してしまい、カメに負けてしまいました。見ている先が違えば結果が変わってくるように人生も変わってきます。

人生様々なことがあります。常に笑って楽しんで、応援してくれる人に感謝をし、いくつになっても夢や希望を叶えるために、一歩踏み出す勇氣を持って、自分を信じ、できることを全力で続けていく「人としての在り方」を私はこれからもつなげていきます。

